

カノウ ヒロヨシ

加納 裕義

448-110-9 M

S25.02.23 69才 4ヶ月

6E07

## 肝癌手術説明書

患者さんのお名前：

診療録番号

1. 病名：肝細胞がん再発

2. 手術の必要性・目的：最も高い治療効果が期待できるため

3. 手術予定日：2019年 6月 29日

4. 予定手術名・麻酔方法

予定手術：肝部分切除、場合により胸腔鏡下、C9-7"留置

麻酔方法：全身麻酔

5. 手術の方法とその特徴

別紙参照

6. 手術を行った場合の予後や改善の見込み、程度

病気が良くなり、治癒する可能性も出てくる。

ただし病気が再発する可能性があり、再び治療が必要となることがある。

7. 手術を受けなかった場合の予後

病気が増大し、肝不全になるか、他の臓器に転移して死亡する。

8. 代替的治療法の内容および利害損失

局所療法（ラジオ波凝固法；RFA、マイクロ波凝固療法；MCT）、肝動脈塞栓療法(TACE)、化学療法(抗癌剤治療)、経過観察などがあるが、いずれも手術と比較し治療効果は劣る。

9. その他







説 明 書

私は患者 加納 裕義 殿 ( I D 4481109 ) に 6月24日 に実施する  
医療行為 肝部分切除 について次のように説明いたしました。

1. 現在の診断病名と病状:

肝細胞癌再発、骨転移あり

2. その医療行為を採用する理由(目的・必要性・有効性):

病勢コントロール目的

3. その医療行為の具体的内容:

肝部分切除、場合により胸腔ドレーン、C-チューブ留置の可能性あり

4. その医療行為を行った場合の予後、改善の見込、程度:

追加治療の効果次第であるが、予後の延長が期待できる可能性

5. その医療行為に伴う合併症の種類、程度と頻度、合併症が生じた際の改善の見込や程度

(文献に報告されているデータ、可能であれば当院におけるデータ、PSなどを考慮した個別の患者に関するものを記載)

周術期死亡率は1-2%と考えられる

詳細は別紙参照

6. その医療行為を受けなかった場合の予後、改善の見込み、程度:

病勢増悪→肝不全死

7. 代替的医療行為が有る場合には、その内容および利害損失:

レンビマ投与のみでは巨大肝腫瘍の病勢を完全にコントロールできないと考えられる

焼灼術、血管内治療、放射線では効果が不十分である可能性



8. いかなる医療行為を行わなかった場合の予後、改善の見込、程度：  
病勢増悪→肝不全死

9. 他の医療機関を受診しセカンドオピニオンを受ける権利があること  
病気の診断や治療について、他の病院を自由に選択し意見を求めることができます(セカンドオピニオン)。  
セカンドオピニオンについてお聞きになりたい時には、いつでもご相談下さい。

10. 同意はいつでも取り消し、診療を中止できること  
同意はいつでも取り消し、診療を中止することができます。担当医まで申し出て下さい。診療に同意されない場合でも何ら不利益はありません。

11. その他必要と思われる事項



令和元年6月20日

旭川医科大学病院 肝胆脾外 科(部)主治医 横尾 英樹 印

肝胆脾外 科(部)医師 高橋 裕之 印

同席者 看護師 須藤 郁佳

## 同意書

旭川医科大学病院長 殿

このたび診療を依頼しました貴院において、左記の医療行為を受けるにあたっては、あらかじめ担当医師からその必要性、内容等について十分な説明を受け、納得いたしましたので、実施することに同意いたします。なお、緊急または予想外の処置の必要が生じた場合には、適切な処置が行われることについても同意いたします。

令和元年 6 月 20 日

患者	ふりがな			①・女	1950年02月23日生 ( 69 才)	
	氏 名					
保護者 又は 近親者	住 所	〒078 旭川市豊岡6条1丁目2番8-27号 市住86KR8-27号 電話 0166-32-7276				
	氏 名		印	男・女	年令	患者との続柄
	住 所					
	氏 名		印	男・女	年令	患者との続柄
患者が未成年のときは両親、その他の場合は最も近い親	住 所					
	氏 名		印	男・女	年令	患者との続柄
	住 所					
	氏 名		印	男・女	年令	患者との続柄
	住 所					
	氏 名		印	男・女	年令	患者との続柄

\* 「説明・同意書」は、医師・同席者が署名を行い、患者・保護者又は近親者へ説明して同意・署名を得て下さい。

\* 患者・保護者又は近親者同意・署名後コピーをとり、コピーを家族・患者へ渡して下さい。原本をスキャン室へ提出して下さい。